

高校生が政務官にイエローカードを提出

「世界中の子どもに教育を」キャンペーン2010で、すべての子どもが教育を受けるために必要な資金について学んだ高校生2名が、7月9日(金)、外務省で西村智奈美外務政務官と面会しました。

実際に「世界一大きな授業」に参加した高校生は、授業で使ったポスター教材や、世界の軍事費をリボンの長さに換算したアクティビティを体験したことを報告。「授業を受けて、世界の軍事費の多さに改めてびっくりしました。このような問題を知らなかった友人は、世界で小学校に通えない子どもがまだまだたくさんいること、そして、学校に通えない子どもが一日も早くいなくなるために、自分自身でもできることがあれば考えたいと言っていました」と伝えました。



世界の軍事費をリボンの長さで体験する政務官



高校生から日本の政府に、“イエローカード”!

4月20日の国会議員向け授業で「先生」役を務めた高校生からは、岡田外務大臣はじめ、党を超えて35人もの国会議員や関係者の参加があったことを報告。「私自身も、今回先生役を務めることになって、いかに先生という人は人に説明できるほどの知識が必要で、用意が大切かということがわかり、学校の先生の大変さを実感しました。もっと多くの人がこの問題を知れば、もっと状況は変わると思います。そして、支援する側と受ける側が対等な立場にたって、協力し合うこともよい国際社会をつくることになると思います。」議員からも「学校の先生の給与などにもっとお金を援助し支援するべき」というコメントが出たことを伝えました。

今年の「世界中の子どもに教育を」キャンペーンには、全国の小・中・高校・大学から、351校、41,940人が参加。昨年の2倍の参加がありました。また事後学習として、教育支援の拡充を願うメッセージを首相宛に届けるイエローカードが8,138人分寄せられ、高校生から政務官へ手渡されました。



全国の学校からたくさんのイエローカードが寄せられました

キャンペーンを主催するJNNE(教育協力ネットワーク)事務局からは、日本のODAの成績表を渡すとともに、基礎教育援助の増額、脆弱国、低所得国への支援強化、特に教員の労働条件の改善や新規教員の確保などに必要な、経常経費に対する支援の増額、教育を含むすべてのMDGsを包括的に支援するために、ODA全体の増額もしくはMDGs分野への援助割合の拡大を訴えました。

「世界一大きな授業」で学んだ子どもたちの思いが託されたイエローカードは、後日、菅首相のもとに報告される予定です。